

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1	新設組織の概要	
(1)	新設組織の概要（名称，入学定員，収容定員，所在地）	P 2
(2)	新設組織の特色	P 2
2	人材需要の社会的な動向等	
(1)	新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	P 3
(2)	中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	P 5
(3)	新設組織の主な学生募集地域	P 5
(4)	既設組織の定員充足の状況	P 6
3	学生確保の見通し	
(1)	学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
①	既設組織における取組とその目標	P 7
②	新設組織における取組とその目標	P 7
③	当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数	P 7
(2)	競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	
①	競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性	P 8
②	競合校の入学志願動向等	P 8
③	学生納付金等の金額設定の理由	P 9
(3)	学生確保に関するアンケート調査	P 9
(4)	人材需要に関するアンケート調査等	P 20
4	新設組織の定員設定の理由	P 25

1 新設組織の概要

(1) 新設組織の概要（名称，入学定員，収容定員，所在地）

新設組織	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
北陸大学大学院 医療保健学研究科医療保健学専攻 (修士課程)	3	6	石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地

(2) 新設組織の特色

本研究科は、医療保健学に関する高度な専門的知識と研究能力・実践力を身につけ、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成することを目的とする。本学医療保健学部医療技術学科、理学療法学科を基礎とし、学位の分野は、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）・保健衛生学関係（リハビリテーション関係）である。

本研究科では、専門科目群に「臨床検査学領域」「理学療法学領域」の二つの専門領域を置き、臨床検査学、理学療法学の専門性を高めながら、医療保健学分野共通の幅広い視野と知識を修得する。医療等の現場に必要な高度な専門的知識・技術と研究能力を身につけ、患者や利用者、対象者の健康状態の向上に貢献する。

2 人材需要の社会的な動向等

(1) 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

我が国においては、急速な高齢化をはじめとする社会構造の変化、医学の進歩や医療技術の高度化による疾病・障害構造の変化、ならびに国民の生活環境や生活習慣の変化など、様々な変化が急速に進んでいる。このようななか、国民が充実した生活を送るためには、心身の健康、疾病、障害に対応する医療専門職の専門性の向上が求められている。

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会が設置する未来構想策定に関する検討委員会の答申書（平成 25 年 3 月）「臨床検査技師の未来構想」【資料 1】は、臨床検査技師の未来像を、①技術者から医療人へ、②卒前卒後一貫教育を担う多様な人材の育成、③社会に貢献する人材の育成、としており、医療現場における臨床検査の実践に加えて、チーム医療の一員として医師の診断・治療をサポートする人材や、臨床検査技師の知識・技術の向上をサポートする人材等、多様な人材による更なる専門性を追求する必要性が示されている。さらに、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に伴い、臨床検査技師等に関する法律が一部改正され、医療現場における臨床検査技師の業務範囲が拡大し、その役割が変化している。同技師会では、前述の委員会に加え、臨床検査技師あり方推進ワーキンググループの「将来へ向けての臨床検査技師のあり方～提言～」(平成 31 年 3 月)【資料 2】においても、臨床検査技師は、臨床医学の領域に限らず、生活指導、予防医学に関するあらゆる領域で活躍できる職種であり、社会のニーズに合わせ柔軟に対応する必要があることを示している。

また、リハビリテーション専門職は、患者の高齢化が進むなか、患者の運動機能を維持し、QOL 向上を推進する観点から、病棟における急性期の患者に対するリハビリテーションや在宅医療における訪問リハビリテーションの必要性が高まるなど、リハビリテーション専門家としての医療現場における役割が大きくなっている。理学療法士の職域範囲も、急性期、回復期、生活期における自立支援、生活環境改善、肢体不自由児・者への生活機能アプローチに加え、健康増進、予防、保健活動、地域リハビリテーションマネジメント等の領域における活動があり、医療機関だけでなく、保健、福祉、スポーツなど、様々な分野に活躍の場が広がっている。こうした活動の現状に鑑み、公益社団法人日本理学療法士協会では、新生涯学習制度を 2022（令和 4）年より開始し、理学療法士の質を担保すると共に役割の拡大を目指している【資料 3：週刊医学界新聞（通常号）第 3455 号 日本理学療法士協会会長斉藤秀之氏インタビュー】。

臨床検査技師、理学療法士をはじめとする医療専門職は、社会の変化と共に求められる役割も変化し、必要となる知識・技術が今後もさらに高度になると考えられるが、現在、臨床検査技師、理学療法士の養成教育は、大学や専修学校等、様々な教育機関で行われており、各々の職種に関連する指定規則に則りつつも、各教育機関の人材養成の目的等に基

づき、各々が特色を持ったカリキュラムによって教育活動を行っている。

このような養成教育の状況において、専門的な知識やスキルの深化、研究活動の促進及びリカレント教育やリスキリングの充実が求められており、すでに医療専門職として従事している者を含め、新しい知識・技術を修得することは、保健・医療・福祉領域において、人材の質を高めるために重要な活動であり、大学院の修士課程における教育がその役割の一つになると考えられる。

大学院における教育については、「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－答申（平成17年9月5日：中央教育審議会）」【資料4】において、その主たる機能が、研究者養成と高度職業人養成であることが示されており、具体的な人材養成機能が、①創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成、②高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成、③確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成、④知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成、という4項目に整理されている。また、修士課程は、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又はこれに加えて高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培う課程であることから、①高度専門職業人の養成、②知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成を行う課程、あるいは、③研究者等の養成の一段階として、高度な学習需要への対応等社会のニーズに的確に対応するよう求めている。

本答申に則り、大学院を設置することで、専門的な知識と技術を深化し、研究活動を促進すると共にリカレント教育及びリスキリングを充実させることができる。また、最新の医療技術や検査法、研究成果などを学ぶことによって、医療環境の変化や医療技術の進歩に対応できる人材を養成することが可能となる。

以上のような背景から、本学は、医療等の現場に必要な高度な専門的知識・技術と研究能力を身につけた高度専門職業人の養成をとおして、地域社会の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とし、医療保健学部を基礎とした、「医療保健学研究科医療保健学専攻」を設置することとした。

本学においては、「健康社会の実現」を使命とし、2017（平成29）年4月に臨床検査技師、臨床工学技士の養成を目的として医療保健学部医療技術学科を設置し、2023（令和5）年4月に理学療法士の養成を目的として同学部に理学療法学科を設置した。前述のとおり、他の医療職との連携が必須となるなか、医療保健学部においては、開学以来、北陸地域の薬剤師養成の拠点である薬学部における教育基盤のもと、医療人を養成する教育的資産を活かし、チーム医療に積極的に関わることでできる人材を養成してきた。本研究科においても、医療保健学分野共通の幅広い視野と知識を持ち、臨床検査学、理学療法学の専門性を高めることで、患者や利用者、対象者の健康状態の向上に貢献することができるものと考えている。

また、本研究科に対する地域の需要に関する調査として、主に北陸地域（石川県、富山県、福井県）に所在する事業所等に、本研究科の設置についてアンケート調査を行ったと

ころ、本研究科の特色や養成する人材像については、「必要である」との回答が 47.3%で最も多く、「とても必要である」との回答が 25.5%であることから、7割以上(72.7%)の事業所等が本研究科の人材養成等について必要性があると回答している。さらに、同アンケート調査における、本研究科が養成する人材の採用意向については、「採用したい」との回答が 18.2%、「採用を検討したい」との回答が 50.9%であり、半数以上の事業所等が採用を検討するとしている。本アンケート調査については、「3(5)人材需要に関するアンケート調査等」で詳述する。

(2) 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

我が国の総人口は、2020(令和2)年の1億2,615万人から、2070年には8,700万人に減少すると推計されている。本研究科の主な入学対象者は、新規学卒者及び社会人であるが、生産年齢人口と称される15~64歳の人口は、2020(令和2)年の7,509万人から、2032年には7,000万人、2043年には6,000万人、2062年には5,000万人を割り、2070年には4,535万人にまで減少すると推計される(出生中位推計の結果による)。**【資料5:日本の将来推計人口(令和5年推計)結果の概要(国立社会保障・人口問題研究所)】**本学の所在地である石川県においても、全国の傾向と同様、生産年齢人口は、2015(平成27)年の68.4万人から2030年60.7万人、2045年には49.0万人まで減少すると推計されている。**【資料6:日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)都道府県別15-64歳人口と指数(国立社会保障・人口問題研究所)】**

また、2019(令和元)年から2023(令和5)年の生産年齢人口(15~64歳)は、7,554万人から7,393万人となり、約161万人減少した。**【資料7:人口推計結果(2019~2023年)】**一方、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等 入学志願動向」によると、大学院修士課程及び博士前期課程、専門職学位課程への入学者は、2019(令和元)年度31,488人から2023(令和5)年度36,201人に増加している。また、保健系の過去5年間の動向は、研究科数(130→160)、入学定員(2,088人→2,539人)、志願者数(2,247人→2,889人)、入学者数(1,839人→2,178人)のいずれも増加している。人口及び生産年齢人口の減少は進行しているが、大学院修士課程及び保健系研究科の志願動向等は拡大傾向にあり、社会的なニーズは継続的にあると考えられる。**【資料8:大学院志願者等の増減状況、区分ごとの動向】**

(3) 新設組織の主な学生募集地域

本研究科の主な学生募集地域は、北陸3県(石川県、富山県、福井県)である。本学既設学部の2023(令和5)年度入試では、入学者の57%が石川県出身者、81%が北陸3県出身者であり、本研究科においても同様の傾向であると考えられる。また、前述の地域の需

要に関する事業所等へのアンケート調査においても、本研究科が養成する人材への需要を確認することができ、学生募集地域を石川県を中心とした北陸3県と設定するのは妥当である。

本研究科が置かれる石川県の定員充足状況は、修士（博士前期）課程を設置している私立5大学の入学動向によると、大学ごとに充足状況は異なるものの、修士（博士前期）課程全体の入学定員は充足している。【資料9：石川県の私立大学大学院（修士（博士前期）課程）入学定員充足率】また、学問分野別の定員充足状況は、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、本研究科の系統区分である「保健系」大学院の過去3年間の入学定員充足率は80%を超えている。【資料10：新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙1）】

(4) 既設組織の定員充足の状況

本研究科の基礎となる医療保健学部医療技術学科、理学療法学科の定員充足状況は、別紙2-1及び2-2に示すとおりである。医療技術学科の過去5年間の入学定員充足率の平均は1.3倍である。志願者・受験者ともに減少傾向ではあるが、2024（令和6）年度より入学定員を65人から60人に減ずることで、安定的な定員の充足が見込まれる。また、2023（令和5）年度に開設した理学療法学科についても、入学定員充足率1.3倍と、順調に学生を確保しており、入学定員の充足は今後も十分可能であると見込んでいる。【資料11：既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）（別紙2-1）（別紙2-2）】

3 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

① 既設組織における取組とその目標

既設学部等の学生確保における取組では、①地域社会のニーズに応じた適切な入学定員設定、②オープンキャンパス等のイベント、デジタルメディア等を通じた広報、③社会から求められる人材を養成するためのカリキュラム編成、を3つの柱としている。

また、本学の長期ビジョン・第2期中期計画の重点項目に「入学者確保・広報・ブランディング」を設定しており、オープンキャンパス参加者数、資料請求者数、大学 Web サイトアクセス件数、プレスリリースによるメディア掲載件数等について、目標値を定め、教職員一体となって取り組んでいる。

② 新設組織における取組とその目標

本研究科においても、既設学部等の学生確保における取組を実施するとともに、以下のような取組を実施する。

1) 経済的支援

大学院独自の経済的支援制度を整備することで、経済的負担を理由に大学院進学が困難な者のなかから、進学者を確保することが期待される。具体的には、本学卒業生に対する入学金免除や成績優秀者への奨学金制度を整備することで、国立大学並の学費で修学できるよう、経済的支援を行う。

2) 社会人学生への配慮

本研究科は、社会人の入学も想定されるため、ICT を活用したオンライン授業や、長期履修制度を設けることで、社会人が在職のまま修学できるよう、支援を行う。

3) 既設学部の実習先等への広報活動

基礎となる医療保健学部の実習先である病院、施設等に対し、広報活動を行う。

③ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

高い修学意欲を持ち、成績優秀な学生を対象とした経済的支援により、従来、近隣他大学院（国立）へ進学していた本学医療保健学部卒業生が本研究科へ1人以上進学することが見込まれる。（医療保健学部大学院進学者数：2021（令和3）年度5人、2022（令和4）年度2人、2023（令和5）年度0人、2024（令和6）年度2人（予定））

また、既設学部の実習先の病院、施設等に対し、年に一度本学で実施する実習指導者説明会や訪問を通じて広報活動を行い、社会人学生への配慮等についても周知を行うことで、社会人学生が2人以上進学することが見込まれる。

(2) 競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

① 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性

1) 競合校の選定理由

本学の競合校は、定員規模、学問分野、所在地等の類似性、基礎となる学部等の学力層、設置者（私立）から、金城大学大学院総合リハビリテーション学研究科総合リハビリテーション学専攻を選定した。

大学院名 研究科・専攻名	北陸大学大学院 医療保健学研究科 医療保健学専攻	金城大学大学院 総合リハビリテーション学研究科 総合リハビリテーション学専攻
入学定員	3人	5人
学問分野（※）	保健（その他）	保健（その他）
所在地	石川県金沢市	石川県白山市

※ 学問分野は学校基本調査の学科系統分類表の大分類・中分類

2) 競合校との比較分析

金城大学大学院総合リハビリテーション学研究科は医療健康学部理学療法学科及び作業療法学科を基礎とし、リハビリテーション関連領域のリーダー養成を目的としている。一方、本研究科は、医療保健学部医療技術学科及び理学療法学科を基礎とし、臨床検査領域、理学療法領域の2領域を設け、リハビリテーションだけでなく、医療保健学を学ぶ研究科として、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成することを目的とする。

金城大学大学院の2024（令和6）年度入試は、前期10月（入学手続締切11月）、後期2月（入学手続締切2月）に実施されており、本学においても開設初年度の入試は同時期に実施予定である。

また、学生納付金（初年度）は、金城大学は945,000円、本学940,000円であり、ほぼ同額である。奨学制度においても、卒業生の入学金減免、成績優秀者への奨学金の支給等、こちらも同等の制度を設ける。

② 競合校の入学志願動向等

金城大学大学院総合リハビリテーション学研究科総合リハビリテーション学専攻の過去3年間の入学者数及び入学定員充足率は、2021（令和3）年度2人（40.0%）、2022（令和4）年度2人（40.0%）、2023（令和5）年度5人（100.0%）であり、直近年度については学生確保の状況は良好である（金城大学ホームページ掲載情報による。志願者数、受験者数、合格者数は非公開）。

本研究科においては、前述のとおり、リハビリテーション分野だけでなく、臨床検査学、理学療法学を中心とした医療保健学分野に関する幅広い視野と知識を修得すること

ができ、競合校よりも対象を広く設定している。また、金城大学の入学定員5人に対し、本学は3人と設定しており、十分に定員を充足できると考える。

③ 学生納付金等の金額設定の理由

本研究科の学生納付金の設定にあたり、前述のとおり競合校である金城大学総合リハビリテーション学研究科等の2024（令和6）年度の学生納付金を参考に、入学金20万円（初年度のみ）、授業料74万円と設定した。

(3) 学生確保に関するアンケート調査

本研究科設置にあたり、客観的データに基づいて学生確保の見通しを検討するため、本学在学学生及び主に北陸三県に所在する事業所等に勤務する医療技術職の方を対象として、アンケート調査を行った。調査の概要と結果は以下のとおりである。

① アンケート調査の概要

1) 目的

2025（令和7）年4月に開設を予定している「医療保健学研究科医療保健学専攻（仮称）」に関して、進学意向等を把握することを目的とする。

2) 調査対象

- ・本学医療保健学部医療技術学科在学学生（2、3年次生）
- ・本学医療保健学部医療技術学科在学学生（4年次生）
- ・主に北陸三県（石川県、富山県、福井県）に所在する事業所等に勤務する、臨床検査技師、理学療法士等の医療技術職として在職中の方

3) 実施時期

2023（令和5）年7月～2023（令和5）年11月

4) 調査方法

- ・本学医療保健学部在学学生対象

教室にてリーフレット【資料12】及び調査票【資料13：2、3年次生用】【資料14：4年次生用】を配布し、回答を回収。（2023（令和5）年9月25日（月）、10月2日（月）、11月14日（火）実施）

- ・社会人対象

ア 本学から既設学部の実習先をはじめとする、病院、診療所、介護保健老人施設等の事業所等へリーフレット【資料12】及び調査票【資料15：社会人用】を送付し、勤務している医療技術職（臨床検査技師、理学療法士等）の方に対し、Googleフォーム又は調査票より回答を回収。

イ 医療技術職の方を対象としたセミナーにおいて、リーフレット【資料12】及

び調査票【資料 15：社会人用】を配布し、回答を回収。(2023 (令和 5) 年 7 月 29 日 (土) 北陸地域の臨床検査技師を対象とした研修セミナー (北陸大学、石川県臨床衛生検査技師会共催)、2023 (令和 5) 年 9 月 18 日 (月) 北陸一般検査セミナー (石川県臨床衛生検査技師会) にて実施)

※ ア、イの回答者は重複しない。また、イの各セミナー出席者は重複しない。上記回答の集計を、北陸大学企画部において行った。なお、アンケート調査票の配布、集計はそれぞれ別の職員が担当し、中立性、公平性を十分に確保した上で実施した。

5) 回収状況

在学生 170 件 (うち 4 年次生 62 件)、在職中の方 217 件、合計 387 件の有効回答を得た。

② 調査結果

1) 在学生 (2、3 年次生)、2) 在学生 (4 年次生)、3) 社会人、に分けて調査結果を以下のとおり示す。なお、集計における構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、必ずしも合計が 100 とはならない。

1) 在学生 (2、3 年次生)

問 1：学年について

回答者 (108 人) の学年の内訳は、2 年次生が 59 人 (54.6%)、3 年次生が 49 人 (45.4%) である。

問 2：在籍する学科について

回答者 (108 人) の在籍する学科は、医療技術学科である。(理学療法学科は 2023 (令和 5) 年度開設で 1 年次生のみ在籍であるため、調査未実施。)

問 3：卒業後の進路について

回答者 (108 人) の卒業後の進路は、「就職 (医療職)」101 人 (93.5%)、「就職 (一般企業)」3 人 (2.8%)、「大学院進学」及び「その他」がそれぞれ 2 人 (1.9%) である。なお、「大学院進学」と回答した回答者は、2 人とも 3 年次生である。

	件数	%
1. 大学院進学	2	1.9
2. 就職 (医療職)	101	93.5
3. 就職 (一般企業)	3	2.8
4. その他	2	1.9
合計	108	100.1

「4. その他」の回答

まだ考え中

※問4・問5は、問3で「大学院進学」と回答した回答者（2人）による回答。

問4：志望する大学院の設置者について（複数選択可）

志望する大学院の設置者について複数回答で尋ねたところ、「私立」が1、「公立」が2、「国立」が1であった。

問5：大学院で学びたいと考えている興味のある学問分野について（複数選択可）

興味のある学問分野について複数回答で尋ねたところ、「臨床検査学」が1、「臨床工学」が1、「歯学、口腔衛生福祉学」が1であった。

問4で志望する大学院の設置者に「私立」を選択した1人については、「臨床検査学」と回答した。

問6：本研究科が開設された場合の受験希望について

本研究科の受験については、「第一志望として受験する」2人（1.9%）、「第二志望として受験する」9人（8.3%）、「第三志望以降として受験する」14人（13.0%）、「受験しない」82人（75.9%）である。

卒業後の進路が「大学院進学」で、志望する大学院の設置者に「私立」を選択した1人については、「第二志望として受験する」を選択した。

また、卒業後の進路に「就職」「その他」を選択した回答者についても、23人（21.3%）が将来的に本研究科を受験することに関心を示している。

	回答者全体		大学院進学			
	件数	%	件数	%	私立志望	
			件数	%	件数	%
1. 第一志望として受験する	2	1.9	0	0.0	0	0.0
2. 第二志望として受験する	9	8.3	1	50.0	1	100.0
3. 第三志望以降として受験する	14	13.0	1	50.0	0	0.0
4. 受験しない	82	75.9	0	0.0	0	0.0
不明	1	0.9	0	0.0	0	0.0
合計	108	100.0	2	100.0	1	100.0

※問7は、問6で「第一志望・第二志望・第三志望以降として受験する」と回答した回答者（25人）による回答。

問7：本研究科を受験して合格した場合の入学希望について

本研究科を受験し、合格した場合の入学意向については、「入学する」9人（36.0%）、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」12人

(48.0%)、「入学しない」4人(16.0%)である。

そのうち、卒業後の進路が「大学院進学」で、志望する大学院の設置者に「私立」を選択し、問6で「第二志望として受験する」と回答した1人については、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した。

	回答者全体		大学院進学（私立志望）							
			第一志望		第二志望		第三志望以降			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1. 入学する	9	36.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	12	48.0	1	100.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0
3. 入学しない	4	16.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	25	100.0	1	100.0	0	0.0	0	100.0	0	0.0

また、卒業後の進路に「就職」「その他」を選択した回答者のなかで、将来的に本研究科を受験することに関心を示している23人のうち、8人(34.8%)が「入学する」、11人(47.8%)が「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答しており、合計すると19人(82.6%)が本研究科への入学に関心を示している。

	回答者全体		卒業後の進路に「就職」「その他」を選択し、将来的に本大学院の受験に関心がある者							
			第一志望		第二志望		第三志望以降			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1. 入学する	9	36.0	8	34.8	2	100.0	2	25.0	4	30.8
2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	12	48.0	11	47.8	0	0.0	6	75.0	5	38.5
3. 入学しない	4	16.0	4	17.4	0	0.0	0	0.0	4	30.8
合計	25	100.0	23	100.0	2	100.0	8	100.0	13	100.1

※問8は、問7で「入学する」「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した回答者(21人)による回答。

問8：本研究科に入学したい理由について（複数選択可）

本研究科に入学する意向がある回答者に対して、入学したい理由を尋ねたところ、「教育内容の充実」が46.1%で最も多く、次いで「教育環境(キャンパス)の充実」30.8%、「立地」15.4%などとなっている。

「入学する」と回答した回答者に限って見ると、「教育内容の充実」が61.5%で最も多く、6割を超えている。

	回答者全体		入学する		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	
	件数	%	件数	%	件数	%
1. 教育内容の充実	12	46.1	8	61.5	4	30.8
2. 立地	4	15.4	2	15.4	2	15.4
3. 教育環境（キャンパス）の充実	8	30.8	3	23.1	5	38.5
4. 他大学にない特色	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5. その他	2	7.7	0	0.0	2	15.4
合計	26	100.0	13	100.0	13	100.1

2) 在学生（4年次生）

問1：学年について

回答者（62人）は、4年次生である。（卒業時に本研究科未開設のため、2、3年次生とは別にアンケート調査を実施。）

問2：在籍する学科について

回答者の在籍する学科は、医療技術学科である。（理学療法学科は2023（令和5）年度開設で1年次生のみ在籍であるため、調査未実施。）

問3：将来的に大学院修士課程へ進学することへの興味関心について

大学院への興味関心について尋ねたところ、「関心がある」が30人（48.4%）、「少し関心がある」が25人（40.3%）、「関心がない」が7人（11.3%）であった。

	件数	%
1. 関心がある	30	48.4
2. 少し関心がある	25	40.3
3. 関心がない	7	11.3
合計	62	100.0

※問4、問5、問6は、問3で「関心がある」「少し関心がある」と回答した回答者（55人）による回答。

問4：大学院への進学を希望する時期について

大学院への進学時期について尋ねたところ、「わからない」が20人（36.4%）で最も多く、次いで「時期はわからないがいずれ進学したい」14人（25.5%）、「就職して2～3年後くらいに進学したい」が12人（21.8%）、「就職して5年以上経ってから進学したい」6人（10.9%）などとなった。

	件数	%
1. 就職後すぐ進学したい	2	3.6
2. 就職して2～3年後くらいに進学したい	12	21.8
3. 就職して5年以上経ってから進学したい	6	10.9
4. 時期はわからないがいずれ進学したい	14	25.5
5. わからない	20	36.4
6. 進学しない	1	1.8
合計	55	100.0

問5：志望する大学院の設置者について（複数回答可）

志望する大学院の設置者について複数回答で尋ねたところ、「国立」が37.7%で最も多く、次いで「私立」32.5%、「公立」28.9%であった。

	件数	%
1. 私立	37	32.5
2. 公立	33	28.9
3. 国立	43	37.7
不明	1	0.9
合計	114	100.0

問6：興味のある学問分野について（複数回答可）

学びたいと考えている興味のある学問分野について複数回答で尋ねたところ、「臨床検査学」が68.7%で最も多く、次いで「臨床工学」31.1%となった。

また、問5で志望する大学院の設置者を「私立」と回答した回答者についても、「臨床検査学」が67.4%で最も多く、次いで「臨床工学」が32.6%となっている。

	全体		私立志望	
	件数	%	件数	%
1. 臨床検査学	46	68.7	31	67.4
2. 臨床工学	21	31.3	15	32.6
3. 理学療法学	0	0.0	0	0.0
4. 作業療法学	0	0.0	0	0.0
合計	67	100.0	46	100.0

問7：本研究科が開設された場合の受験希望について

本研究科の受験については、「第一志望として受験する」24人（38.7%）、「第二志望として受験する」16人（25.8%）、「第三志望以降として受験する」6人（9.7%）、

「受験しない」15人（24.2%）である。

大学院進学に「関心がある」「少し関心がある」回答者で、志望する大学院の設置者に「私立」を選択した37人については、「第一志望として受験する」19人（51.4%）、「第二志望として受験する」10人（27.0%）、「第三志望以降として受験する」4人（10.8%）、「受験しない」4人（10.8%）であった。

	回答者全体		A：大学院進学に興味関心があるもの		B：Aのうち私立志望		C：Bのうち興味のある学問分野が「その他」以外	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1. 第一志望として受験する	24	38.7	24	43.6	19	51.4	19	51.4
2. 第二志望として受験する	16	25.8	16	29.1	10	27.0	10	27.0
3. 第三志望以降として受験する	6	9.7	6	10.9	4	10.8	4	10.8
4. 受験しない	15	24.2	9	16.4	4	10.8	4	10.8
不明	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	62	100.0	55	100.0	37	100.0	37	100.0

※問8は、問7で「第一志望・第二志望・第三志望以降として受験する」と回答した回答者（46人）による回答。

問8：本研究科を受験して合格した場合の入学希望について

本研究科を受験し、合格した場合の入学意向については、「入学する」30人（65.2%）、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」16人（34.8%）で、「入学しない」と回答した者はいなかった。

また、私立志望者については、「入学する」25人（75.8%）、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」8人（24.2%）であった。そのうち、第一志望で受験すると回答した者（19人）については、全員が「入学する」と回答した。

	回答者全体		大学院進学に興味関心がある私立志望者							
			第一志望		第二志望		第三志望以降			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1. 入学する	30	65.2	25	75.8	19	100.0	5	50.0	1	25.0
2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	16	34.8	8	24.2	0	0.0	5	50.0	3	75.0
3. 入学しない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	46	100.0	33	100.0	19	100.0	10	100.0	4	100.0

※問9は、問8で「入学する」「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した回答者（46人）による回答。

問9：本研究科に入学したい理由について（複数選択可）

本研究科に入学する意向がある回答者に対して、入学したい理由を尋ねたところ、「教育内容の充実」が48.4%で最も多く、次いで「教育環境（キャンパス）の充実」26.6%、「他大学にない特色」10.9%などとなっている。

「入学する」と回答した回答者においても、ほぼ同様の割合である。

	回答者全体		入学する		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	
	件数	%	件数	%	件数	%
1. 教育内容の充実	31	48.4	22	48.9	9	47.4
2. 立地	6	9.4	3	6.7	3	15.8
3. 教育環境（キャンパス）の充実	17	26.6	12	26.7	5	26.3
4. 他大学にない特色	7	10.9	5	11.1	2	10.5
5. その他	3	4.7	3	6.7	0	0.0
合計	64	100.0	45	100.1	19	100.0

3) 社会人

問1：お住まいの地域について

回答者の居住地は、「石川県」が120人（55.3%）で最も多く、回答数の半数以上が石川県居住者である。次いで、「富山県」が38人（18.0%）、「福井県」が27人（12.8%）である。

	件数	%
1. 石川県	120	55.3
2. 富山県	38	17.5
3. 福井県	27	12.4
4. その他	32	14.7
合計	217	99.9

「4. その他」の回答

茨城県	神奈川県	新潟県	岐阜県
静岡県	静岡県	愛知県	京都府
大阪府	兵庫県	奈良県	不明

問2：年齢について

回答者の年齢は、「20歳代」が54人（24.9%）、「30歳代」が64人（29.5%）、「40歳代」が46人（21.2%）、「50歳以上」が53人（24.4%）である。

	件数	%
1. 20歳代	54	24.9
2. 30歳代	64	29.5
3. 40歳代	46	21.2
4. 50歳以上	53	24.4
合計	217	100.0

問3：職種について

回答者の現在の職種は、「臨床検査技師」が101人（46.5%）で最も多く、次いで「理学療法士」が88人（40.6%）、「作業療法士」が13人（6.0%）、「臨床工学技士」が8人（3.7%）である。

	件数	%
1. 臨床検査技師	101	46.5
2. 臨床工学技士	8	3.7
3. 理学療法士	88	40.6
4. 作業療法士	13	6.0
5. その他	7	3.2
合計	217	100.0

「5. その他」の回答

言語聴覚士	薬剤師	看護師	臨床検査助手
衛生検査技師	医療系代理店	不明	

問4：勤務年数について

回答者の現在の職種での勤務年数は、「20年以上」が72人（33.2%）で最も多く、次いで「10年以上20年未満」が65人（30.0%）、「5年未満」が47人（21.7%）、「5年以上10年未満」が33人（15.2%）である。

	件数	%
1. 5年未満	47	21.7
2. 5年以上10年未満	33	15.2
3. 10年以上20年未満	65	30.0
4. 20年以上	72	33.2
合計	217	100.1

問5：大学院修士課程進学への興味関心について

大学院への興味関心について尋ねたところ、「関心がある」が37人（17.1%）、「少し関心がある」が60人（27.6%）、「関心がない」が120人（55.3%）であった。

	件数	%
1. 関心がある	37	17.1
2. 少し関心がある	60	27.6
3. 関心がない	120	55.3
合計	217	100.0

※問6、問7は、問5で「関心がある」「少し関心がある」と回答した回答者（97人）による回答。

問6：志望する大学院の設置者について（複数回答可）

志望する大学院の設置者について複数回答で尋ねたところ、「国立」が41.7%で最も多く、次いで「公立」33.0%、「私立」23.8%であった。

	件数	%
1. 私立	49	23.8
2. 公立	68	33.0
3. 国立	86	41.7
不明	3	1.5
合計	206	100.0

問7：興味のある学問分野について（複数回答可）

学びたいと考えている興味のある学問分野について複数回答で尋ねたところ、「理学療法学」が45.9%で最も多く、次いで「臨床検査学」33.3%などとなった。

また、志望する大学院の設置者で「私立」と回答した回答者について見ると、「理学療法学」が56.1%で最も多く、次いで「臨床検査学」が22.8%などとなっている。

	全体		私立志望	
	件数	%	件数	%
1. 臨床検査学	37	33.3	13	22.8
2. 臨床工学	7	6.3	2	3.5
3. 理学療法学	51	45.9	32	56.1
4. 作業療法学	6	5.4	4	7.0
5. その他	10	9.0	6	10.5
合計	111	99.9	57	99.9

「5. その他」の回答

公衆衛生学	経営学、経営
神経発達症（発達障害）	スポーツ分野
医療経営学	診療情報管理、データ分析
遺伝学	心理学

問8：本研究科が開設された場合の受験希望について

本研究科の受験については、「第一志望として受験する」11人（5.1%）、「第二志望として受験する」19人（8.8%）、「第三志望以降として受験する」9人（4.1%）、「受験しない」168人（77.4%）である。

大学院進学に「関心がある」「少し関心がある」回答者で、志望する大学院の設置者に「私立」を選択し、本研究科の学問分野に興味のある47人については、「第一志望として受験する」6人（12.8%）、「第二志望として受験する」11人（23.4%）、「第三志望以降として受験する」4人（8.5%）、「受験しない」25人（53.2%）であった。

	回答者全体		A：大学院進学に興味関心があるもの		B：Aのうち私立志望者		C：Bのうち興味のある学問分野が「その他」以外	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1. 第一志望として受験する	11	5.1	11	11.3	6	12.2	6	12.8
2. 第二志望として受験する	19	8.8	19	19.6	11	22.4	11	23.4
3. 第三志望以降として受験する	9	4.1	9	9.3	4	8.2	4	8.5
4. 受験しない	168	77.4	55	56.7	27	55.1	25	53.2
不明	10	4.6	3	3.1	1	2.0	1	2.0
合計	217	100.0	97	100.0	49	99.9	47	99.9

※問9は、問8で「第一志望・第二志望・第三志望以降として受験する」と回答した回答者（39人）による回答。

問9：本研究科を受験して合格した場合の入学希望について

本研究科を受験し、合格した場合の入学意向については、「入学する」12人（30.8%）、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」24人（61.5%）で、「入学しない」2人（5.1%）であった。

また、私立志望者については、「入学する」6人（28.6%）、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」14人（66.7%）であった。そのうち、第一志望で受験すると回答した者（6人）については、「入学する」5人（83.4%）、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」1人（16.7%）と回答した。

	回答者全体		大学院進学に興味関心がある私立志望者							
			第一志望		第二志望		第三志望以降			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1. 入学する	12	30.8	6	28.6	5	83.4	1	9.1	0	0.0
2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	24	61.5	14	66.7	1	16.7	9	81.8	4	100.0
3. 入学しない	2	5.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4. 不明	1	2.6	1	4.8	0	0.0	1	9.1	0	0.0
合計	39	100.0	21	100.1	6	100.1	11	100.0	4	100.0

本アンケート調査結果による本研究科の入学希望者については、社会人を対象とした調査において、私立大学院志望者のうち、興味関心がある学問分野が「臨床検査学」または「理学療法学」であり、本研究科を第一志望として受験し合格した場合に、「入学する」と回答した者が5人おり、この5人が本研究科への入学希望者といえることができる。さらに、在学生（2、3年次生）を対象とした調査において、私立大学院志望者のうち、興味関心がある学問分野が「臨床検査学」であり、本研究科を第二志望として受験し合格した場合、「入学する」と回答した者が1人、社会人を対象とした調査において、同じく私立大学院志望者において、興味関心がある学問分野が「臨床検査学」または「理学療法学」であり、本研究科を第二志望として受験すると回答した者のうち、1人が「入学する」、9人が「志望順位が上位の他の志望校が不合格となった場合に入学する」と回答しており、この計11人についても本研究科への入学に関心を示しているといえることができる。

また、学部4年次生（62人）においては、将来的な大学院進学に興味関心がある学生55人のうち、私立大学院への進学を希望し、興味関心がある学問分野が「臨床検査学」であり、本学を第一志望として受験する学生15人全員が、合格した場合に「入学する」と回答している。なお、この15人のうち、問4の大学院進学時期への回答において、「就職して2～3年後（5人）」、「就職して5年以上経ってから（2人）」、「時期がわからないがいずれ（3人）」と回答した10人については、一定の勤務経験を経た後の将来的な進学希望を示しており、本研究科の継続的な入学者確保が可能であるといえることができる。

(4) 人材需要に関するアンケート調査等

本研究科設置にあたり、修了生の採用意向等を把握するために、主に北陸三県に所在する事業所等を対象にアンケート調査を行った。調査の概要と結果は以下のとおりである。

① アンケート調査の概要

1) 目的

2025（令和7）年4月に開設を予定している「医療保健学研究科医療保健学専攻（仮称）」の修了生に関して、採用意向等を把握することを目的とする。

2) 調査対象

主に北陸三県（石川県、富山県、福井県）に所在する事業所等に勤務する、医療技術職の採用担当の方

3) 実施時期

2023（令和5）年8月～2023（令和5）年11月

4) 調査方法

本学から既設学部の実習先をはじめとする、病院、診療所、介護老人保健施設等の事業所等へリーフレット【資料12】及び調査票【資料16】を送付し、医療技術職の採用担当の方に対し、Google フォーム又は調査票より回答を回収。

上記回答の集計を、北陸大学企画部において行った。なお、調査及び集計の際は、中立性、公平性を十分に確保した上で実施した。

5) 回収状況

合計55件の有効回答を得た。

② 調査結果

調査結果を以下のとおり示す。なお、集計における構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、必ずしも合計が100とはならない。

問1：事業所等の所在地について

回答事業所等の所在地については、「石川県」が36件（65.5%）で最も多く、次いで「富山県」8件（14.5%）、「福井県」7件（12.7%）である。

	件数	%
1. 石川県	36	65.5
2. 富山県	8	14.5
3. 福井県	7	12.7
4. その他	4	7.3
合計	55	100.0

「4. その他」の回答

愛知県
神奈川県
静岡県

問2：事業所等の業種について

回答事業所等の業種については、「病院」が37件（67.3%）で最も多く、次いで「介護老人保健施設」8件（14.5%）、「診療所」「その他」がそれぞれ5件（9.1%）である。

	件数	%
1. 病院	37	67.3
2. 診療所	5	9.1
3. 介護老人保健施設	8	14.5
4. その他	5	9.1
合計	55	100.0

「4. その他」の回答

通所介護
訪問介護
居宅介護
通所リハ
デイケア

問3：本研究科の特色や養成する人材像について

本研究科の特色や養成する人材像については、「必要である」が26件（47.3%）で最も多く、「とても必要である」が14件（25.5%）であることから、合計すると40件、約4分の3（72.8%）の事業所等が本研究科の人材養成等について必要性があると回答している。

	件数	%
1. とても必要である	14	25.5
2. 必要である	26	47.3
3. どちらともいえない	13	23.6
4. 不要である	2	3.6
合計	55	100.0

問4：本研究科修了生の採用について

本研究科修了生の採用については、10件（18.2%）が「採用したい」と回答している。また、「採用を検討したい」が28件（50.9%）であり、半数以上の事業所等が採用を検討するとしている。

	件数	%
1. 採用したい	10	18.2
2. 採用を検討したい	28	50.9
3. 採用は考えない	8	14.5
4. その他	9	16.4
合計	55	100.0

「4. その他」の回答

現段階では分からない
修士があるかでは、考えていない
今後、検討したい
人物によるところが大きい

現場としては採用したいが採用枠が毎年、確保できない
そのような立場でないので回答はできません
分からない
良い人材であれば学歴にこだわらない
公募、採用試験実施のうえ検討

※問5は、問4で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した事業所等（38件）による回答。

問5：本研究科修了生の採用人数について

本研究科修了生の採用人数を尋ねたところ、「採用したい」事業所等では「1人」が5件（50.0%）で最も多かった。「採用したい」と回答した事業所等の回答結果に基づき、本研究科修了生の採用人数を計算すると、毎年15人の採用が想定される。

	採用したい		採用を検討したい	
	件数	%	件数	%
1. 1人	5	50.0	5	17.9
2. 2人	2	20.0	1	3.6
3. 3人以上	2	20.0	0	0.0
4. その他	1	10.0	22	78.6
合計	10	100.0	28	100.1

「採用したい」と回答した
事業所等の回答に基づく
採用人数

	件数	採用人数
1人	5	5人
2人	2	4人
3人以上*	2	6人
合計	9	15人

※3人として計算

「4. その他」の回答

人数未定
状況による
欠員補充としての採用を検討
欠員・増員等による求人があれば検討したい
人員状況を勘案の上、採用人数を検討する

問6：勤務する職員が入学を希望した際の対応について

勤務する職員が本研究科に入学を希望した際の対応について尋ねたところ、「希望する職員によっては許可する」が19件（34.5%）で最も多く、次いで「わからない」16件（29.1%）、「積極的に許可する」12件（21.8%）などとなった。

	件数	%
1. 積極的に許可する	12	21.8
2. 希望する職員によっては許可する	19	34.5
3. 許可しない・許可できない	2	3.6
4. わからない	16	29.1
5. その他	5	9.1
6. 不明	1	1.8
合計	55	100.0

「5. その他」の回答

目的などを面談して、許可する
勤務を続けながらの通学や単位取得が可能かどうかを踏まえて検討する
状況による
詳細を確認し、検討する
個人の意思を尊重する

問7：本研究科へのご意見・ご要望等について

自由回答意見
県内に修士課程が増えることは、いいことだと思います
奥能登2市2町の公立4病院の人材確保につながることを大いに期待いたします
急激な人口構造の変化に対応できる専門的な人材を教育する研究機関として期待しています
今後ともよろしく願いいたします

本アンケート調査結果による本研究科を修了した人材の需要については、本研究科修了生に対する採用意向において、「採用したい」との回答が10件、「採用を検討したい」との回答が28件あり、約7割の事業所等が採用を検討するとしている。また、採用を検討する事業所等の採用想定人数については、「採用したい」と回答した事業所等では、「1人」が5件、「2人」が2件、「3人」が2件となっており、採用人数を計算すると、毎年15人の採用が想定される。さらに、「採用を検討する」と回答した事業所等においても、採用人数「1人」が5件、「2人」が1件あることから、入学定員3人を超える採用需要が毎年あると考えられる。

4 新設組織の定員設定の理由

本研究科の入学定員は、本学が位置する北陸地方の地域性及び競合する他大学院修士課程の入学定員及び定員充足状況に鑑み、本学の教育研究実施組織及び施設・設備等をふまえて総合的に検討した結果、本研究科における教育・研究の質を保証するとともに、安定した学生数を確保することができる定員として、入学定員を3人（収容定員6人）に設定した。